



## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2019年11月5日

上場会社名 株式会社ダイショー 上場取引所 東  
 コード番号 2816 URL <http://www.daisho.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 松本 洋助  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 松本 俊一 (TEL) 092-611-9340  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月8日 配当支払開始予定日 2019年12月2日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2020年3月期第2四半期の業績 (2019年4月1日~2019年9月30日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	9,960	0.9	109	△45.2	169	△19.2	101	△19.2
2019年3月期第2四半期	9,875	3.2	198	26.2	209	32.2	125	34.5
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2020年3月期第2四半期	10.53		—					
2019年3月期第2四半期	13.04		—					

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	14,001	7,969	56.9
2019年3月期	13,669	7,936	58.1

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 7,969百万円 2019年3月期 7,936百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
2020年3月期	—	9.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2020年3月期の業績予想 (2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	21,000	2.1	510	0.6	570	8.9	360	10.3	37.30

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2020年3月期2Q	9,868,800株	2019年3月期	9,868,800株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2020年3月期2Q	216,088株	2019年3月期	216,088株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2020年3月期2Q	9,652,712株	2019年3月期2Q	9,652,737株
------------	------------	------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善が続くなど、緩やかな回復基調で推移しているものの、米中貿易摩擦の影響に加え、消費税増税による消費マインドの悪化のリスクもあり、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、人口減少と個人消費の停滞が長期化する状況下で販売競争が激化するなか、消費者の差別化ニーズへの対応も依然として求められております。また、人手不足による人件費や物流費の上昇など、厳しい経営環境が続きました。

このような状況のもと、当社は、前3ヶ年計画の反省と成果を踏まえ、2022年3月期までの中期経営計画を新たに策定し、収益構造の改革と持続的成長の実現に取り組んでおります。具体的には、「主力製品の集中販売」「業務用製品のさらなる飛躍」「新製品の開発」「次世代の組織作り」の4つの基本施策を通じ、実力ある収益力の高い主力製品を核とした事業活動にあらためて注力するなど、当社の強みをさらに伸ばしてまいります。

製品群別の概況は、以下のとおりであります。

液体調味料群においては、小売用製品では、主力製品の「焼肉のたれ」類が堅調に推移するなか、話題の人気メニューがご家庭で簡単に楽しめる『チーズタッカルビの素』、焼肉のたれの新フレーバー『焼肉通り 香味野菜しょうゆ味』などの新製品が売上を牽引いたしました。鍋スープ市場に対しては、『博多もつ鍋スープ』が順調に売上を伸ばすなか、あらたに「贅沢風味」「辛」「少人数」「野菜をおいしく」をキーワードとした、多くの製品を投入しました。このなかでも、特徴の異なる4種類のチーズをバランスよく合わせた、チーズ感たっぷりの『クアトロチーズ鍋スープ』に代表される「贅沢風味」の鍋スープが好調な滑り出しとなりました。業務用製品では、販売チャネルごとの専任部署の増設・人員拡充やメニュー開発・提案の強化など、新規開拓への継続的取り組みが奏功し、精肉向けのソース、惣菜向けのたれの伸長が売上に寄与しました。この結果、売上高は67億32百万円（前年同期比101.2%）となりました。

粉体調味料群においては、主力製品の販売強化の取り組みのもと、『味・塩こしょう』シリーズは詰め替え用を中心に堅調に推移いたしました。業務用製品では、各販売チャネル向けにラインアップを充実させ、精肉向けや惣菜向けの売上が大きく伸長いたしました。この結果、売上高は20億81百万円（前年同期比102.4%）となりました。

その他調味料群においては、新製品『トマトがおいしいもち麦サラダ用セット』を投入し、主力製品の『レタスがおいしいパリ麺サラダ』とともに売上を牽引いたしました。この結果、売上高は11億47百万円（前年同期比96.4%）となりました。

以上の結果、当第2四半期累計期間における売上高は、99億60百万円（前年同期比100.9%）となりました。利益につきましては、原材料価格は想定範囲内で推移したものの、広告・販促企画活動といった後方支援への積極投資や、物流コストの上昇の影響は大きく、営業利益は1億9百万円（前年同期比54.8%）、経常利益は1億69百万円（前年同期比80.8%）、四半期純利益は1億1百万円（前年同期比80.8%）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ3億31百万円増加し、140億1百万円となりました。固定資産が総資産の55.7%を占め、流動資産は総資産の44.3%を占めております。主な資産の変動は、「商品及び製品」が1億98百万円、「受取手形及び売掛金」が1億89百万円それぞれ増加したことによるものです。

負債は、前事業年度末に比べ2億98百万円増加し、60億32百万円となりました。流動負債が負債合計の70.1%を占め、固定負債は負債合計の29.9%を占めております。主な負債の変動は、「長期借入金」が2億92百万円、「買掛金」が2億36百万円、「1年内返済予定の長期借入金」が1億66百万円それぞれ増加し、「短期借入金」が2億円、「役員退職慰労引当金」が1億87百万円それぞれ減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べ32百万円増加し、79億69百万円となりました。主な純資産の変動は、剰余金の配当86百万円の支出と四半期純利益1億1百万円の計上により「利益剰余金」が14百万円増加したことによるものです。自己資本比率は56.9%となり、前事業年度末に比べ1.2ポイント下降しました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、15億41百万円となり、前事業年度末に比べ1億78百万円減少いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前四半期純利益1億68百万円、減価償却費3億37百万円、仕入債務の増加額2億36百万円等による資金の増加と、たな卸資産の増加額2億13百万円、売上債権の増加額1億89百万円等による資金の減少により、前年同期比で3億76百万円支出減の7百万円の純支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出1億75百万円等による資金の減少により、前年同期比で86百万円支出増の1億89百万円の純支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる純収入4億58百万円と短期借入金の返済2億円、リース債務の返済1億53百万円等の支出により、前年同期比で1億36百万円収入減の18百万円の純収入となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

「業績予想の修正に関するお知らせ」(2019年10月31日に公表)において発表いたしました通期の業績予想からの変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

①原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産または流動負債として繰り延べる方法を採用しております。

②税金費用の計算

当第2四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,720	1,541
受取手形及び売掛金	3,043	3,233
商品及び製品	749	948
原材料	326	341
その他	114	159
貸倒引当金	△17	△21
流動資産合計	5,938	6,203
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,250	2,165
土地	2,677	2,677
リース資産(純額)	732	649
その他(純額)	864	1,064
有形固定資産合計	6,524	6,556
無形固定資産	27	51
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,179	1,190
貸倒引当金	△0	△1
投資その他の資産合計	1,178	1,189
固定資産合計	7,731	7,797
資産合計	13,669	14,001

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,509	1,746
短期借入金	200	—
1年内返済予定の長期借入金	—	166
未払金	1,152	1,275
未払法人税等	96	100
賞与引当金	396	417
その他	605	522
流動負債合計	3,959	4,228
固定負債		
長期借入金	—	292
退職給付引当金	425	436
役員退職慰労引当金	778	590
その他	570	484
固定負債合計	1,773	1,803
負債合計	5,733	6,032
純資産の部		
株主資本		
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	6,763	6,778
自己株式	△114	△114
株主資本合計	7,899	7,914
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	36	54
評価・換算差額等合計	36	54
純資産合計	7,936	7,969
負債純資産合計	13,669	14,001

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	9,875	9,960
売上原価	5,780	5,869
売上総利益	4,094	4,091
販売費及び一般管理費	3,895	3,981
営業利益	198	109
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	1	1
不動産賃貸料	3	3
保険解約返戻金	9	16
受取補償金	—	40
その他	4	4
営業外収益合計	18	67
営業外費用		
支払利息	7	6
その他	0	0
営業外費用合計	8	6
経常利益	209	169
特別損失		
固定資産除売却損	9	0
特別損失合計	9	0
税引前四半期純利益	200	168
法人税、住民税及び事業税	74	67
法人税等合計	74	67
四半期純利益	125	101



## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	200	168
減価償却費	342	337
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△16	△187
賞与引当金の増減額(△は減少)	19	21
売上債権の増減額(△は増加)	△731	△189
たな卸資産の増減額(△は増加)	△181	△213
仕入債務の増減額(△は減少)	138	236
未払金の増減額(△は減少)	51	△13
その他	△47	△100
小計	△224	60
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	△7	△6
法人税等の支払額	△153	△62
営業活動によるキャッシュ・フロー	△384	△7
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△98	△175
その他	△4	△14
投資活動によるキャッシュ・フロー	△103	△189
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	400	△200
長期借入れによる収入	—	500
長期借入金の返済による支出	—	△41
リース債務の返済による支出	△157	△153
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△86	△86
財務活動によるキャッシュ・フロー	155	18
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△332	△178
現金及び現金同等物の期首残高	1,642	1,720
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,310	1,541

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第2四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

該当事項はありません。